

幼稚園の統廃合計画案

現在の公立23園を12施設に再編整備

いま「鈴鹿市幼稚園再編整備検討委員会」が開かれています。今年度中に方向を出す予定で審議が進んでいますが、7月には具体的な再編整備案のたたき台が、当局より出されました。

その再編整備案は、市内を10中学校区単位に分けて、単位校区ごとに統廃合を進めるというものです。具体的には、次のようになっています。

鈴峰中校区	椿幼・深伊沢幼・庄内幼	椿幼稚園
白鳥中校区	加佐登幼・井田川幼・石薬師幼	加佐登幼稚園
平田野中校区	国府幼・庄野幼・牧田保	幼保一元化施設
創徳中校区	牧田幼・飯野幼・算所保	幼保一元化施設
神戸中校区	神戸幼・河曲幼	神戸幼稚園
	一ノ宮幼・一ノ宮保	幼保一元化施設
大木中校区	長太幼・箕田幼	箕田幼稚園
千代崎中校区	玉垣幼・愛宕幼・若松幼・玉垣保	幼保一元化施設
白子中校区	稲生幼稚園、旭が丘幼稚園	(再編なし)
鼓ヶ浦中校区	白子幼・白子保	幼保一元化施設
天栄中校区	天名幼・栄幼・合川保	幼保一元化施設

廃止される園の児童は、遠い園に通うことに

児童数が少ない園は廃止し「効率化」をはかる、併せて再編後の全園で4歳児保育を行なう、私立幼・保と合わせてどの校区にも受け皿があり選択できる、という内容です。しかし、今小学校に隣接して地域に根付いた形の幼稚園は、大きく減ることになります。これからの審議が注目されます。

鈴西小校舎、コンクリート強度不足への対応と原因究明は

7月に突然明らかになった、鈴西小学校の特別教室棟のコンクリート柱の多くが強度不足であった問題について、8月12日の市議会全員協議会で、市教委から経過と対策の報告がありました。

原因は「打設されたコンクリート本体」である

まず、コンクリート柱の6本以上が強度不足であった原因については、専門のコンサルタントが現地調査を行ない、7月25日に出した分析結果の中間報告で、建物が完成した後から外的な原因によって腐食、劣化したとは考えられず、「打設したコンクリート本体に起因すると考えるのが妥当である」、つまり工事をした時点で問題があったとしています。当時の工事業者に責任があるということです。

市教委は、建物の瑕疵（かし）担保期間は5年間とされていて、この校舎は20年経って期間は過ぎているが、しかし建物のいちばん基本の所での「重大な瑕疵」であることから、「施工業者への損害賠償の請求」を検討していく、との態度を表明しました。

当面プレハブ教室を建て、改修か建替えかを検討

2学期を前にして、立ち入り禁止のままの特別教室に代えて、プレハブ教室2教室分を急いで建てる（9月中旬予定）。また、職員室や校長室、保健室は普通教室棟の余裕スペースに引っ越して、支障のないようにする、ということでした。

また今後の方向については、まだ建物の梁など全体の調査結果が出ていないため、部分的な改修工事で行くのか、それとも全面的な建替え工事になるのか、結論はまだ出ていません。もし全面建替えということになれば、相当の期間と費用が必要になってきます。

いずれにしても、いちばん影響を受けるのは子どもたちと先生です。学習環境が今より悪くならないための、十分な対策を求めていきたいと思います。大地震がいつ来るかと言われている昨今、実害が出る前に欠陥が発見されたことは、本当にラッキーなことでした。

北アルプス・鹿島槍ヶ岳の涼風

この夏は耐えられないほどの熱暑の日々がつづきました。そんな地上から少しでも涼しいところへということで、8月上旬、鈴鹿年金者組合山歩会の皆さんについて、鹿島槍ヶ岳（2890m）の登山に参加しました。山小屋2泊、3日間のゆったりした日程で、幸い天気もよく山小屋も余裕があって快適な山行でした。とはいっても、歩いている間は汗だくのクタクタでしたが。

山の上は、わがパーティも含めて高齢者がほとんど。若者はどこに行ったのか？でもみんな元気です。頂上でかなり高齢の男性が「50年ぶりだ！」と絶叫していました。私など、80になったら入道岳でもムリだろうな。

たまたま出会った津市のK夫人は、我々と同じ行程を1泊でスタスタと帰って行くし、頂上で会った松阪の男性2人連れは、なんと日帰りでサッサと下っていきました。やはりふだんの体力づくりが大切だと痛感しました。



国保会計決算、07年度で10億円の基金が半減

8月11日、国民健康保険運営協議会が開かれ、2007年度の国保会計の決算が報告されました。歳入・歳出とも159億円で、見た目はトントンですが、実質は「支払準備基金」から5億円を繰り入れているので、5億円の赤字とすることが出来ます。

主な原因は、医療費が増えていることに加えて、国保税の収納率が上がらないこと、国からの財政調整交付金が1億円以上もカットされたこと、などです。国保税の収納率は、現年分が88.04%、滞納分が19.31%で、県下14市中ビリ、依然として「高くて払えない」市民が多いことがうかがえます。そのことが影響して、交付金がカットされ赤字を大きくしています。

10億円もあった基金が、1年で5億円なくなりました。事務局に聞くと、08年度もひじょうに厳しいので基金がゼロになるのでは、との見通しです。したがって、ここは一般財政からの繰り入れ措置を講じてでも、市民に国保税値上げのしわ寄せをしない対応が求められます。

ずいそう



「時間」について考える

物理学者の池内了さんが、だれにも分かるように易しく書いた「時間とは何か」（講談社）を読んで、改めて時間の不思議や歴史について考えてみた。ふつう「時間」というと、時計で測れる「物理時間」を言う。1日が24時間で、1月が31日で1年が12ヶ月で、というようになっているが、今のように決まるまでは、古代にまず、夜明けから日没、次の夜明けまでが1日、満月から満月までが30日、それが12回で1年というように、天の運動から時間の長さが決まっていた。これが12進法や60進法の元になり、1日を昼と夜それぞれ12に分割して1時間とした。また天の動きとのズレを修正するのに「閏年」を設けたりした。

日本では明治6年までは旧暦「太陰太陽暦」を使っていて、1月を29日と30日の交互にして、3年に1度は「閏月」を入れて、13ヵ月にしていたという。ずうっと時代劇を見ていても、こんな厄介な暦のことは知らずにいたが、すると例えば「赤穂浪士の討ち入り」12月14日は、今の暦ではいつなんだろう？また、歴史上の人物の命日なども、ややこしい計算をしなくては今の暦に当てはめることが出来ないのではないかな？

子どもの時間は長く、年寄りの時間は短い

大きなゾウの寿命は100年、小さなハツカネズミの寿命は3年だが、脈拍を比べるとどちらも、心臓が15億回脈を打つと寿命を終えるという。チョロチョロ動き回るハツカネズミもノンビリ動くゾウも、その固有の時間では平等なのである。その計算でいくと人間の寿命は30年ほどになるが、今は家に住み病院に行き、生活環境を良くしている分だけ寿命が伸びている。

そこで私はハタと気がついた。どうも子どもの頃の時間の長さや、だんだん年が行ってからの時間の長さが違うようだと感じていたが、それがこの「寿命の法則」で裏付けられた。野生のヒトの寿命であった30才過ぎてからの時間は、次第に速くなっていくのが当然である。あっという間に次のオリンピック、次の選挙がやってくるという感覚は、避けられないものなのだ。

これを克服するには、何にでも興味をもち、いろんなことにチャレンジして、自分の時計を速く回すことだ、と池内さんは言っている。